資料３

企業等委員への個別ヒアリングの実施状況

１．ヒアリングの内容

「生物多様性のだ戦略」の策定に向けた調査・検討の一環として、市民会議に参加する市内の企業・大学等を対象として、個別ヒアリングを実施する。

・現状において実施している生物多様性に係る取組
・今後、取組むことを考えている、可能性のある取組

についてヒアリングを行い、取組事例として市民会議で紹介し、企業や大学としての取組として、「生物多様性のだ戦略」へ組み込める要素を議論する。

２．ヒアリングの対象者

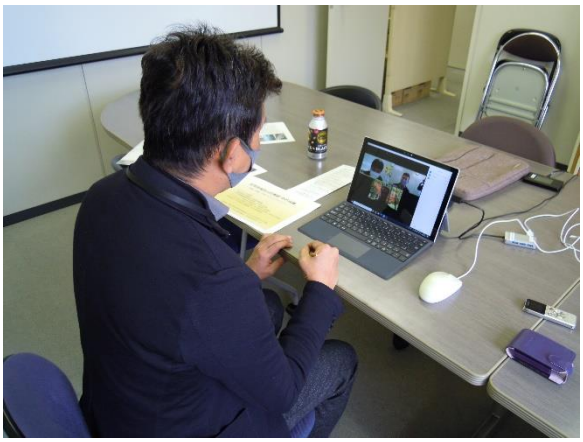
「生物多様性のだ戦略市民会議」の委員の中から、以下の委員へヒアリングを実施。

・株式会社千秋社　清水公園園長　鈴木哲雄委員　（令和３年１月 18 日午前）
・ちば東葛農業協同組合　参事　染谷幸夫委員　（令和３年１月 18 日午後）
・キッコーマン株式会社　環境部長　香西陽一郎委員（令和３年１月 21 日午前）
・イオン株式会社　環境･社会貢献･PR･IR 担当付部長　金丸治子委員
（令和３年１月 21 日午後）
・東京理科大学　教授　朽津和幸委員　（令和３年１月 22 日午後）

３．ヒアリングの実施方法

①ヒアリング依頼文書の作成・送付
②令和３年１月 12 日～22 日の間、平日における対応可能枠を把握・調整
③方法については、WEB が良いか・訪問が良いか、また、WEB でのヒアリングを希望される場合は対応可能な形式を確認

ヒアリング（訪問）の様子


ヒアリング（WEB）の様子

4．ヒアリングの主な視点

（冒頭）

・新型コロナウィルス感染拡大を防止する観点から市民会議の開催が難しい状況にあり、市内の企業・大学関係委員より「生物多様性のだ戦略」改定に向けた意見を個別に伺いたい。よろしくお願いします。

・配布・共有資料として、今回のヒアリングで伺いたい視点、またヒアリング対象各委員が所属する職場の概要、参考資料として他の生物多様性地域戦略における企業や大学等の関わり事例を挙げているで、ご覧いただけたらと思います。

①株式会社千秋社　清水公園園長　鈴木哲雄委員

・民間の公園における取組（維持管理の工夫や体験学習等）、今後の可能性について

・民間の公園における生物多様性の保全活動や人材育成のフィールドとしての活用

②ちば東葛農業協同組合　参事　染谷幸夫委員

・農業分野における生物多様性に係る取組（減農薬栽培、体験活動等）について

・環境に配慮した農産物のブランド化について（黒酢米ほか）

③キッコーマン株式会社　環境部長　香西陽一郎委員

・製造業における環境保全活動の考え方や取組について

・食の観点から野田市の生物多様性の保全に係る取組について

④イオン株式会社　　環境･社会貢献･PR･IR 担当付部長　金丸治子委員

・小売業をはじめとした総合企業における生物多様性の考え方や取組について

・イオン各店舗等で行っている取組、市内店舗において実施可能な取組みについて

⑤東京理科大学　教授　朽津和幸委員

・東京理科大学野田キャンパスにおける生物多様に係る取組について

・理想会記念自然公園における活動や人材育成のフィールドとしての活用について

5．ヒアリングを通じて得られた課題等

◆ 自生地が失われるおそれがある場合に備えて、種の保存上の危険分散を市内で確保。

◆ 虫捕りをはじめ子供たちの自然体験の場として、市民が利活用できる場の確保。

◆ 有機栽培や減農薬・減化学肥料栽培の農産物について、安定した販売先を確保。

◆ 子供たちの米づくり体験を通じて、野田らしい農地・農業の維持・普及。

◆ 水環境を大切にする等、企業におけるサプライチェーンを含む CSV としての活動。

◆ 市内の企業における生物多様性を含めた地域社会への貢献と官学民の連携。

◆ 自然豊かなショッピングセンター等、企業用地における生物多様性の保全。

◆ 店舗で扱う商品の持続可能な調達への意識や、店舗を中心とした環境教育の展開。

◆ 企業との連携に際し SDGs のメニューを提示して参加を呼びかける等の工夫。

◆ 関東平野にコウノトリを取り戻すという夢のある市の活動の更なる周知・広報。

◆ 市内の大学における立地や自然環境を活かした教育の展開。

◆ 大学と市が WIN-WIN となるメニューを検討・活用し、魅力あるまちづくりの推進。

株式会社千秋社　清水公園・園長　鈴木　哲雄　委員

■日時：2021 年 1 月 18 日（月）10:00～11:30

■場所：清水公園・会議室

・現在の清水公園をどう活用しようかと日々模索している。
・時代時代と共に清水公園は変化してきた。昭和 41 年から座生沼の買収を始め、花ファンタジアとして整備し、その過程でも大きな池を残しており多様な生物の棲み処となっている。
・花ファンタジアでは、地域種を含め 700 種ほど集めて管理している。その中に希少になった種も含まれているため、市内の他の自生地が失われるとした場合の危険分散の役割を担っているかも。そのような視点での利活用は可能と思われる。但し、3・4・5・6・9・10・11 月のみ開園。
・清水公園は桜の名所として古くから知られているが、ソメイヨシノが寿命を迎え枯れて来ているものもある。特定外来種クビアカツヤカミキリの被害は、現在のところ未確認。
・最近ミズナラも枯れて来ているが、その原因は今のところはっきりしない。
・アカマツも以前からマツクイムシの影響を受け、50～100 本/年も伐採していた。

Q．清水公園の各ゾーンにおいて、子供たちへのガイド等は行っていますか？
⇒主にキャンプ場ではスタッフが付いて様々な指導をしている。昔に比べて子供たちに人気のカブトムシやクワガタムシが、かなり減ってきているように感じる。安全に利用してもらう上では、ハチなど人に危害を加える生物が増えるのは困るので悩ましい。
Q．公園管理で発生した剪定枝や枯死した木などを積んでおけば、カブトムシやカミキリムシの幼虫が増えると思いますが、そのような場所は設けていますか？
⇒以前はあったが、現在は公園整備で無くなった。以前は周辺の保育所等でカブトムシの幼虫を配ったりしていたが、対応する人もいなくなった。またやりたいという思いはある。そうしないと増えないと思う。キャンプ場整備では、木を切らず立木に合わせて整備している。
Q．外来生物アライグマやハクビシンの状況はどうですか？
⇒外来生物はハクビシンが多いため、業者に依頼して駆除している。水辺ではアカミミガメが増えて対処に困っている。付近の座生川も含め大量にいるが、外来生物は他へ移動できないので、公園の性格上、園内で捕殺して埋めるというのも抵抗があり悩ましい。
Q．生物調査を目的とした大学、あるいは市民団体の利用はどうですか？
⇒市内の団体にも利用して頂いている。但し、大学の先生などから、これはダメ、あれもダメと言われると困る面はあると思う。民間の公園という性格上、利活用の視点も必要で、その理解は必要。
Q．公園利用者の傾向はどうなっていますか？
⇒県内及び近隣都県の都市部の人が主である。平日は小学校・中学校の遠足、また、中学生・高校生は林間学校としてキャンプ場の利用が多い。
Q．幼稚園の利用はどうですか？子供たちの自然体験の場として、また公園内で虫捕りも可能ということで、子供たちの感性を育む場として良い場所と思いますが？
⇒子供たちに自由に虫捕りなど自然の中でさまざまな体験をしてもらいたい。業者の人が大量に持っていくのはダメ。
・（事務局）市民にとって、子どもの頃から清水公園は馴染みが深く、何度も利用している。身近に自然豊かな公園があるというのは贅沢なことで、恵まれていると思う。

以上

■株式会社千秋社・清水公園

https://www.shimizu-kouen.com/public-about

- 清水公園：「自然とともだち」をキャッチフレーズに、自然と触れ合える入園無料の公園。フィールドアスレチック、キャンプ・バーベキュー場、花ファンタジアなど地形や森林を生かした施設（有料）も設置。

ちば東葛農業協同組合　参事　染谷　幸夫　委員

■日時：2021 年 1 月 18 日（月）14:50～15:50

■場所：WEB 会議

Q．ちば東葛農業協同組合では、農薬使用を減らした黒酢米を推進していると思いますが、取組状況はどうですか？

⇒現在でも野田市内の水田の約半分の面積は、黒酢米を栽培しており、積極的に対応している。通常栽培の米より 60 ㎏当たり 1000 程円高く買い取っている。主には学校給食や直売所で扱っている。今後も市と共に、作付面積を増やしていきたい。

Q．有機栽培についてはどうですか？

⇒担当部署では検討していると思うが、ＪＡ全体では未だの状況。減農薬としては、種籾の温湯消毒などにも積極的に取り組んでいる。

Q．農政課と共に進めていく取組と思うが、生き物を増やしていくために農薬を減らすには、農家に対してどのように呼びかけていくと良いか？

⇒作付前の会議やＪＡの広報誌で、農薬や化学肥料を使用する場合の適正使用について、伝えるようにしている。

Q．黒酢米以外の取り組みについてはどうですか？

⇒SGS（ソフトグレインサイレージ）により、籾を粉砕して飼料に用いたり、化学肥料を減らすという観点では、牛糞堆肥等として活用している。

Q．市のふゆみずたんぼの米の取扱いについてはどうですか？

⇒ふゆみずたんぼの米も黒酢米も、安定した販売先の確保が課題。手間がかかる分、高く買い上げても、高く売れなければ扱えない。いかに付加価値を付けるかも考えなければならない。

Q．農協もラッキー、ブラッキーなどイメージキャラクターを設けて、工夫されているが、付加価値としては他の事例を含めどのように考えていますか？

⇒千葉県の鴨川市やいすみ市の米は、食味のコンテストに力を入れ高い評価を受けている。美味しい米づくり、安全・安心の米づくりが付加価値に繋がると考えている。

Q．付加価値としては、生きものに配慮した米づくりをＰＲする方法もあると思います。今後はコウノトリを絡めた米のＰＲを考えていけたらと思いますがどうですか？

⇒これまでも、黒酢米とコウノトリを絡めたＰＲを行ってきているが、なかなか大手スーパーで取り扱って貰っていないなど販路に繋がっていないのが課題。ブランド米として高値でも扱って貰えるか、また、大手の場合は供給量との兼ね合いを考える必要があると思う。

Q．米ばかりでなく野菜も含め農地・農業を守っていくことが野田市の生物多様性を守ることになると思う。しかし、農家は後継者不足の課題を抱えていると思うが、いかがですか？

⇒農協としても職業斡旋に取り組んでいるが、なかなか農業への新規参入者は増えない。繁忙期のみでも人材派遣で対応しようと対策に取り組んでいる。また、農家の高齢化で不耕作地が増えており、農協の子会社で対応している。

Q．生物多様性のだ戦略市民会議の議論に関し、農業者の立場から意見はありますか？

⇒農地で生物を守るというのは正しい考え方だと思う一方で、食料自給率を向上させるということも農業者の使命であるので、そのバランスが難しいと考えることはある。全て有機で取り組んで、わが国の食料自給率がどうなるのかということもある。

Q．ちば東葛農業協同組合で市内の小学生と田んぼの生きもの調査は実施していますか？
⇒生きもの調査は実施していない。子供たちの体験としては、落花生づくり体験、大豆の作り方の指導など、地域の方に協力して頂いて行っている。
Q．いす市ではイオン店舗の「イオンチアーズクラブ」に参加する子供たちを有機水田での米づくり体験に招き、そこで採れた米の店舗販売につなげている事例がありますが？
⇒野田市でも、市内のイオン店舗で黒酢米の販売が可能になると良いと思う。
Q．農家の方は、生物多様性の保全について、どのような捉え方をしていますか？
⇒高齢の農家と若手の農家では捉え方が異なるように思う。かつては自給率向上を重要視する傾向が強く、その中では生物多様性を意識することは少なかったように思う。教育を受ける中で生物多様性を学んできた若い農業者は意識が高くなっているように思う。安い農産物を大量に生産するのか、付加価値の高い農産物に拘るのか、いずれにせよ、稼げる農業を目指していくべきかと思う。
Q．イメージキャラクターのラッキー、ブラッキーとコウノトリ、また、生物多様性とのマッチングをしていけたらと思うがいかがですか？
⇒野田市の生物多様性も農協の広報誌の中で取り上げるようにしたい。また、野田市は米の一大産地なので、子供たちに米づくりを体験してもらい、そのことを通じ生物多様性も学んで貰えたら良いと思う。

以上

■ちば東葛農業協同組合

http://www.ja-chibatoukatu.or.jp/about/

- 経営理念：「未来につながる農業を築きあげ、組合員、地域の皆様と共に豊かな地域社会づくりを目指します」

ぼくのこと「ラッキー」とよんでね。JAちば東葛管内の農畜産物をPRするコウノトリのお友達なんだ。千葉県野田市・柏市・船橋市をすみかとし、管内のイベントを始め、農畜産物のPRのために出没し、「安全」「安心」を消費者に伝える役割を担っているんだ。ぼくは、周囲の人たちに幸せを運ぶんだな。

イオン株式会社　環境・社会貢献・PR・IR 担当付部長　金丸　治子　委員

■日時：2021 年 1 月 21 日（木）10:20～11:20

■場所：WEB 会議

・イオンにとっての「ふるさとの森づくり」は、店舗開設に当たりお客様である周辺住民の皆様と店舗スタッフが一緒に木を植えることを通じて、苗木から成長する過程で永く関係をつなげていきたい、自然豊かなショッピングセンターにしていきたい、そして、地域の皆様との憩いの場になってほしいと考えて取り組んできた。イオンの環境活動の原点であり、これまでに 1200 万本以上の木を植えてきているが、その多くは店舗の周りに植えたものである。

・出店店舗数が国内では近年、減ってきている中、イオン環境財団では国内外の痛んだ森を再生する活動や、災害に遭った地域では行政と共に活動している。

・また、自然無くしては商品を扱っていけないため、商品の原材料に至るまで持続可能な調達、特に、トップバリュ・グリーンアイでは国際認証を受けた商品を積極的に扱っている。

・イオンチアーズクラブは、野田市イオンノア店でも活動しているが、子供たちとお世話係の従業員が一緒になって地域の環境活動を学ぶ機会を設けている。子供たちを通じて家族や学校に広がり、イオンファンにもなって貰えたらと考えている。この活動は現在イオンワンパーセントクラブが所管しているが、あくまでも店舗を中心に活動するものであり、野田市とイオンノア店が何か連携していくことは十分可能性があると思う。

・いすみ市や小山市の活動は、非常に上手く回っている例と思うが、店舗だけで回そうとすると難しい面があると思うので、野田市で考える場合も他にサポートを考える必要があるかもしれない。生物多様性の戦略づくりをきっかけに何かできれば良いと思う。

Q．野田市も 12 万本植樹事業があり、「みどりのふるさとづくり実行委員会」を中心に、15 万本くらい植えてきているが、高齢化等の課題もあり活動を継続していく上でのアドバイスを頂きたい。

⇒体験を通じて学ぶ「ふるさとの森づくり」自体が重要で教育機会になっている。また、社員の新人研修時に座学で教え、その後も店長になる際などで地域とのつながりや環境保全活動について研修を行っている。

Q．他の企業を巻き込んで活動していく上でのアドバイスを頂きたい。

⇒どの企業も SDGs は意識しているものの、何をしたら良いか悩んでいる企業も多いようなので、こちら側からメニューを示して参加を呼びかけるのも良いと思う。

Q．植樹活動は、その後の樹木管理もお金がかかるが、企業の協力を得る上でネーミングライツなども考えられるかと思うが、企業の側からどう思われますか？

⇒個人的には良い提案かと思う。今の世の中、参加型が求められているし、その際も SDGs に絡めて何番と何番に該当する、と説明を付けると良いと思う。

Q．野田市は環境に配慮した米づくりとして、黒酢米の生産を行っている。農家に対する生物多様性の理解を深める上での工夫についてアドバイスを頂きたい。

⇒イオンで扱うお米は契約農家にリクエストする、また、イオンではアグリ農場を持っているが GLOBALG.A.P.を取得しており、関係農家に説明や取得のサポートを行なったりしている。また、プライベートブランドを扱うところには、取引行動規範を説明して、これを守り、目標を持って改善・向上させるように働きかけている。

Q．野田市の自然の多くは、農家が土地を持っている。農家の意識を高める、農業の価値を上げる上でのアドバイスを頂けますか？

⇒コウノトリを活かすのが良いと思う。いい商品を作り、そのことを広めて知ってもらう。いい商品だと伝わり理解すれば、消費者も選択するようになる。コウノトリの取り組みを活かさないというのは勿体ない。

Q．市ではコウノトリの野生復帰事業を進めているが、今後、関東エコロジカル・ネットワークの場を活用する上で、アドバイスを頂きたい。

⇒イオンは関東エコネットのマッチングで、いすみ市、小山市との連携を行ってきた。私も参加して初めてそのことを知った。関東平野にコウノトリを取り戻すという夢のある活動をもっと周知する必要があると思う。

Q．SDGs をキーワードにして生物多様性に取り組む上で、企業と学校ではどのような形がありますか？

⇒店舗と地元小学校の連携がこれまでも行われている。また、企業としては大学の方から依頼があり講義を行うことはある。連携をテーマにするのは良いと思う。但し、継続性という面では、活動する人が替わるのが課題かと思う。

以上

■イオン株式会社

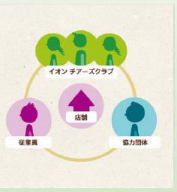
- イオン生物多様性方針：持続可能な社会のために必要な生物多様性の保全を目指し、「生物多様性方針」を策定
  https://www.aeon.info/sustainability/biodiversity/

（基本方針）
事業活動全体における、生態系への影響を把握し、お客さまや行政、NGOなどステークホルダーの皆さまと連携しながら、その影響の低減と保全活動を積極的に推進します。

わたしたちは、「生態系」について事業活動を通じ
1．「めぐみ」と「いたみ」を自覚します。
2．「まもる」「そだてる」ための活動を実行します。
3．活動内容をお知らせします。

- トップバリュ グリーンアイ：安全・安心と自然環境への配慮にこだわった商品　https://www.topvalu.net/gurinai/

- イオンチアーズクラブ：日本全国に約450のクラブが活動
  https://www.aeon.info/sustainability/social/cheers/



- イオン環境財団：植樹活動、生物多様性アワード、環境活動助成事業など
  https://www.aeon.info/ef/

植樹活動

環境活動助成事業

顕彰（生物多様性アワード）

キッコーマン株式会社　環境部長　香西　陽一郎　委員

■日時：2021 年 1 月 21 日（木）15:00～16:10

■場所：WEB 会議

・原材料である水を利用する企業として、水環境を大切にしてきた。環境理念を定めて行動指針を持ち、新入社員全員に対し環境の部署でなくても教育を徹底している。
・環境の取組の 1 つとして、ISO14001 認証を取得している。1 番初めは野田工場を皮切りに、国内・外の主要な事業所・工場で取得し、2011 年には一括認証を取得している。
・経営理念は、『地球社会にとって存在意義のある企業を目指す』を掲げている。
・2018 年にグローバルビジョン 2030 を制定、『キッコーマンらしい活動を通じて地球社会にとって存在意義をさらに高めていく』ということを国内・外に認識してもらえるようにしてきた。グローバルビジョン 2030 は地域社会の課題に取り組むことが基本となる。経済的価値・社会的価値の両立を重視している。
・キッコーマンらしい環境活動とは長期環境ビジョンの推進と水を大事にすること、また環境部だけでなく社員一人一人が自分事として考えていこうと呼びかけている。
・気候変動の取組としては CO2 削減ということで、2030 年までに対 2018 年度比で排出量 30%削減を目標としている。
・商品製造・販売において食の環境をしっかり考えていく。水環境への配慮として水の原単位を、2011 年度比で 2030 年度までに 30%削減していく。洗浄や冷却の使い方など様々な点で工夫する。また排水に関して、河川放流、処理水を法規制に従って実施しているが、さらにそれよりも厳しい自主基準を設定し、水を大切に使い、放流する水は綺麗にして自然に返すという考え方。これは生物多様性に配慮し、地球環境にも配慮しているということで大切な活動と考えている。
・持続可能な調達体制の構築ということで、物を買って使う際に原材料も持続可能なものを選ぶようにすることや、サプライヤーにもこれを促す。現在ガイドラインを作り進めている。例えば、紙製品について森林認証 FSC を受けた紙に切り替えることや、原材料の産地で幼児虐待や不法な森林伐採等で調達してはいけないなど。また、工場、流通の段階で不備があるものを削減していく。製品以外の廃棄物の再資源化を 100%にしていく取り組みをしている。また、環境配慮型容器について、プラスチックのバイオマスへの変更を増やしていくことや、生産時のエネルギーを少なくする・加熱温度を変更する・製品工程を考え直す等、気候変動にも繋がることや水の環境配慮にも繋がる。これらに関しては 2030 年までに研究や開発しながら進めていく。
・エネルギー使用についても積極的に再生可能エネルギーに切り替えており、CO2 削減等、今後も推進していく。
・野田市内での環境学習の取組は、夏休みの小学生対象エコ学習を清水公園で実施したり、キッコーマン「ものしりしょうゆ館」でワークショップを開いたりしていたが、今は行われていない。現在は、「生物多様性ちば企業ネットワーク」に参加、「ものしりしょうゆ館」をサテライトに環境関係の掲示等を行ってきた。耐震化工事やコロナウィルス関係から「ものしりしょうゆ館」を現在閉鎖しているが、環境パネル 5 枚組を制作中で、見学を再開した際にはご覧頂ける。また、大豆や小麦などの廃棄物処理の残渣を堆肥化して鉢植えを作り、毎年野田市駅前ロータリや市内各所に配っている。。

Q．大学生のインターンシップを受け入れていると伺ったが、最近の状況はいかがか？

⇒その年によって異なるが、依頼があれば対応するようにしている。
Q．昔から環境への取組を承知しているが、継続のコツ、課題について教えてほしい。
⇒昔は今ほど「環境」に目を向けることは多くなかった。法令の遵守、マイナスを減らすという視点で、社内委員会において事業部署を集めて横串に刺して互いに話し合うことで変わってきたと思う。最近の新入社員は SDGs をはじめ環境に興味を持ち入ってくる人が増えていると思う。
Q．市内の環境活動は、参加する若者があまり増えていない課題があるが、企業の社員が地域活動に入っていく上での課題はありますか？
⇒実際、平日は仕事をしていて、休日までナゼやるのか、という思いはあるように思う。必然的に、職場と自宅近辺に限られてしまう。気持ち自体は、環境にいいことがしたいという思いは持っている。しかし、言われてやるとなると難しい面もある。
Q．子供たちにどう伝えていくか考えた時「ものしりしょうゆ館」を訪れる小学校 3 年生を相手にされていて、工夫していることがあれば教えてほしい。身近な「食」を通じて自然環境に目を向けてもらうという視点もあると思う。
⇒最近は中学生や高校生からオンラインで問合せがあり、内容に依るが対応している。
Q．他の企業を巻き込む上でのアドバイスを頂きたい。
⇒特に SDGs は、どの企業も重要性を認識しているので、呼びかけやすいのではないか。
Q．企業人として社会生活の中で市の環境活動を取り入れていく視点について伺いたい。
⇒野田市の特徴は人が暮らす住宅地があり、農業や製造業が営まれているところもある。それぞれの特性に応じてゾーニングを行い、活動メニューを考えるのが良いかと思う。野田市民にとって、清水公園と江戸川の自然は、誰もが守りたいと思う。
Q．野田市における生物多様性のシンボルであるコウノトリ野生復帰事業について、企業の立場からどのように感じていますか？
⇒反対する理由は何も無い。但し、社員も野田市民でないと活動内容を知らない。会社としても事業活動とコウノトリ野生復帰事業との関わり、結びつきが明確ではないため、現時点のところコミットする話は挙がっていない。なぜ、野田市でコウノトリなのか、そこの整理や発信も必要だと思う。

以上

■キッコーマン株式会社

環境憲章：

キッコーマングループは、
自然のいとなみを尊重し、
環境と調和のとれた企業活動を通して、
ゆとりある社会の実現に貢献します。

- キッコーマングループ長期環境ビジョン：食の自然環境を守る企業として、持続可能な社会の実現をめざします

https://www.kikkoman.com/jp/csr/environment/longterm.html

	分野	テーマ	2030年度までにめざす目標
持続可能な社会	気候変動	CO_2削減	1. CO_2排出量　30%以上削減 *
	食の環境	水環境への配慮 持続可能な調達	1. 水の使用原単位　30%以上削減 ** 2. 排水法規制よりも高い自主基準値の達成維持 3. 持続可能な調達体制の構築と推進
	資源の活用	廃棄物・食品ロス対応 環境配慮型商品	1. 製造や流通段階での廃棄物削減 2. 再資源化率　100% *** 3. バリューチェーンを通じた環境配慮型商品の展開

* 2018年度比
** 2011年度比
*** 生産部門

東京理科大学（野田キャンパス）理工学部　教授　朽津　和幸　委員

■日時：2021 年 1 月 22 日（金）13:30～15:00

■場所：WEB 会議

■ヒアリング参加者：野田市・宇田川部長、中村課長、野島係長

（公財）日本生態系協会・遠藤、朝見

・東京理科大学は、1881 年（明治 14 年）創立の東京物理学校を主な前身に設立。理学教育を行う私立の学校としては国内最古の歴史を持つ。3 つのキャンパスは、それぞれ特色を有し開設されている。

・1967 年にリサーチパーク型で野田キャンパスを開校。

・理窓会記念自然公園は、大学創立 100 周年を迎えた 1981 年（昭和 56 年）に、卒業生をはじめとする多くの協賛者から寄付を募って整備された。

・かつては東京理科大学の同窓会事務局で管理していたが、10 年程前から生態学の授業を私（朽津委員）が担当することになり、樹木や花、野鳥など、非常勤講師の協力を得て野外授業を充実させている。

・国立科学博物館からも視察を受け、交通の便が良く、研究施設と一体になった、これだけ豊かな里山の自然がキャンパスにあることは、他に類を見ないという話であった。

・江戸川河川事務所の利根運河協議会を通じて、利根運河と理窓会記念自然公園の湿地を魚道でつなぐ取組が提案され、市民団体や建設コンサルタントの協力、また、学生サークルに一般市民も加わって活動している。

・理窓会記念自然公園の活動は、学生にとって高い教育効果があると感じている。

・2018 年には、全国学校ビオトープコンクールにおいて、日本生態系協会賞も受賞した。

Q．生物多様性のだ戦略との関わりという視点について伺いたい。

⇒理窓会記念自然公園を舞台に、生物多様性講座を開き、野田市民にも活用して貰っている。南部梅郷公民館のカリキュラムでは、小・中学生と保護者の方々に参加して貰い、野外で採集した生物を研究室の顕微鏡を使って観察するなど行っている。野田市の小学校教員を対象とした研修も実施している。2020 年は、コロナ禍でブレーキがかかりサークル活動も休止した。これが収まれば復活させたい。

⇒東京理科大学・野田キャンパスには、学生・教職員を合せて 7,000 人が通っている。大学と市が WIN-WIN のメニューを考えていかに活用していくか。魅力をどう発信していくかを共に考えたい。

Q．野田市の生物多様性のシンボル＝コウノトリ野生復帰事業については、いかがですか。

⇒コウノトリが野田市に戻ってきた際は、理窓会記念自然公園に営巣してほしいと願っている。ポーランドでの研究活動の際、欧州のコウノトリ文化を知った。自宅の屋根にコウノトリが営巣するのを、まちの人々は待ち望んでいる。

Q．大学の側から生物多様性のだ戦略に期待することは？

⇒学生にとって魅力あるまち、運河駅～大学キャンパス～里山～利根運河と一体的に捉えたまちづくりが必要で、そのことを地元の自治体から大学側へも要望して貰えたらと思う。

Q．「環境」「生物多様性」をキーワードに官・学・民の連携で取組を発信するというのはどうか？

⇒是非取り組みたい。2017 年の植物学会の年次大会を東京理科大学で開催した際は、連携をはかって取り組んだ。

Q．学生の皆さんに理窓会記念自然公園以外のフィールドへ派遣して頂くことは可能ですか？

⇒理学大学はカリキュラムが豊富で教育面で非常に忙しいということもあるので、工夫が必要かと思う。

Q．自然環境調査において植物サンプルの保存が課題になっている。また、希少種の移植等、清水公園の花ファンタジアにも相談しているが、大学の利用は可能性があるか？

⇒生物多様性の授業において、国立科学博物館の研究者に関わって貰っている。植物の保存は「つくば植物園」、また、ミュージアムパーク茨城県博物館など、これら専門家のアドバイスを受けて実施するのが良いと思う。

Q．野田市の生物多様性の取組は、これまで個別個々に行ってきたように思う。今後は市と大学と企業などが連携していけたら良いと思うので、アドバイスを頂きたい。

⇒「連携」は重要なキーワードだと思う。大学も農学・理学・工学の連携により環境分野をはじめ学問を発展させてきている。社会の人材と学生が話し合う場を設けることも興味深い。個々のアイデアを募って、１つ１つのテーマでブレーンストーミングを行うことが良いのではないか。また、「広報」が重要で、市報の活用や、運河駅のギャラリーで生物多様性の展示、また、SNS を使った発信など、積極的に取り組んだ方が良い。

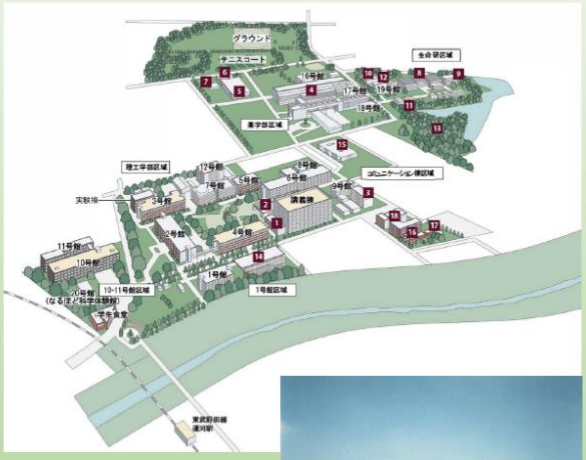
Q．情報をいかに拡散していくか課題であり重要と認識しており、また、参加者のニーズをどう捉えるかを含めアドバイスを頂きたい。

⇒コロナ禍において、人と人とのつながりをいかにしていくかということかと思う。今年度は、コロナ禍を通じてオンラインの有効性を学ぶことにもなった。リモートツールを使いライブイベントを行う、展示の魅力を高める、SNS で効果的に発信するなど、さまざまなチャレンジが求められていると思う。

以上

■東京理科大学（野田キャンパス）

https://www.tus.ac.jp/info/campus/noda.html



- 理窓会記念自然公園：
  野田校地のセミナーハウスに隣接した52800㎡に自然林や蓮池を残して遊歩道を設け、いつでも本学関係者が散策できるようになっています。
  https://tus-alumni.risoukai.tus.ac.jp/anv100

日本語版

（参考）

英語版

環境省パンフレット：生物多様性条約第13 回締約国会議（メキシコ・カンクン）にて配布

（参考）

■生物多様性の主流化

生物多様性に配慮した社会経済を実現し、生物多様性の損失を抑制するために、生物多様性の保全と持続可能な利用に関し日常生活を含むさまざまな社会経済活動の中に組み込むこと。生物多様性条約第13回締約国会議（COP13）では、「とりわけ農林水産業および観光業における各種セクターへの生物多様性の保全および持続可能な利用の組み込み」を主要テーマとして、生物多様性の主流化を含む広範な事項について議論されました。

■CSRからCSV

CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）から、CSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）への移行について、ハーバード大学・マイケルポーター教授の定義によれば、CSRは旧来的な慈善活動であり、外部の圧力によって渋々やらなければならない類のもの。一方CSVは企業が競合優位性を発揮していくための自発的な価値創造の取組で、現在ではCSRからCSVへシフトしてきている、と説いています。

資料４

今後の進め方等について

１　第３回市民会議（令和２年９月15日開催）以降のスケジュールの修正について

新型コロナウイルス感染対策の観点から、第３回市民会議で示したスケジュールを次のとおり修正しました。

【当初予定】

日　程	予　定	内　容
令和２年11月	第４回市民会議	・野田市の生物多様性の現況（市の状況や委員による取組等）を紹介
令和３年１月	第５回市民会議	・自然環境調査（秋季調査結果報告） ・生物多様性に係る動向（世界・国の状況や企業等委員における考え方・取組等）を紹介
３月	第６回市民会議	・市内自然環境拠点視察会の実施 ＜視察地例＞江川地区、二ツ塚、木野崎城下、利根川、利根運河等

【修正内容】

自然環境調査（秋季調査）については概ね予定通り実施しました。企業等委員における取組紹介については、個別ヒアリングを実施し、会議で紹介できるようにしました。

世界・国の状況等の紹介は、今後の市民会議において、のだ戦略の目指す姿を検討する際、必要に応じて情報提供します。また、市内自然環境拠点視察会の実施については、新型コロナウイルス感染対策の観点から、季節ごとの自然環境調査取りまとめ結果報告にて調査地点の状況を把握していただきたいと考えております。

日　程	予　定	内　容
令和２年９月～	自然環境調査（秋季、冬季、春季調査）、社会環境調査（学校へのアンケート調査）実施	
令和３年１月	企業等委員へのヒアリング	・企業等における生物多様性に係る考え方や取組についてのヒアリング
３月	第４回市民会議（書面開催）	・秋季調査取りまとめ結果報告 ・企業等の取組紹介
５月	第５回市民会議（対面開催予定）	・第４回市民会議の意見取りまとめ報告 ・歴史調査報告（新保委員） ・社会環境調査（アンケート調査）結果報告

２　のだ戦略の見直し状況を野田市ホームページに掲載することについて

現在行っている「生物多様性のだ戦略」の見直しについて、野田市ホームページには、市民会議の資料及び会議録を掲載するのみとなっております。

今後、ホームページの閲覧回数が多い「コウノトリ放鳥情報」の中に、戦略見直し状況に関するページを作成し、市民が身近な自然を感じるきっかけを作りたいと考えております。

【現行】

他の政策と同様に、市民会議の資料及び会議録のみの掲載となっています。

掲載場所
トップページ ＞ 市政・市の紹介 ＞ 審議会等 ＞ 審議会等開催のお知らせと会議録・会議資料

【見直し（案）】

市ホームページの中でもアクセス数が多い「コウノトリ放鳥情報」の中に、『のだ戦略見直し状況』に関するページを作成します。

見直し状況をわかりやすく伝えられるよう、希少種等の取扱いには十分注意しながら植物の写真等を掲載し、見直し後の戦略を市民がより身近に感じるきっかけを作りたいと考えています。

また、コウノトリ放鳥情報内に掲載することで、コウノトリをシンボルとした生物多様性の保全や自然再生の取組が、よりわかりやすく伝わることも期待できます。

掲載場所
コウノトリ放鳥情報（トップページ右側に表示）

資料５

議事１～４（資料１～４）の概要説明

議事１（資料１）「自然環境調査の実施状況－秋季調査の結果速報」

2020 年９月～11 月に実施した**秋季調査結果**について「速報」としてご報告します。
本資料はあくまで「速報」であり、今後、情報等の追加・修正の可能性がある資料です。
なお、続く冬季調査（一部分類群）も２月末で終了し、調査員の皆さんには、現在、春季調査を進めて頂いています。今後、夏季調査及び秋季補足調査の実施を予定しており、来秋をめどに全調査のとりまとめを行い、ご報告する予定です。

【自然環境調査の実施概要】

調査地点	１	中戸谷津	８	柳沢西山市民の森・柳沢北耕地市民の森
	２	関宿落堀ビオトープ	９	木野崎城下
	３	五駄沼付近	10	三ツ堀里山自然園
	４	尾崎金島地区	11	二ツ塚
	５	小船橋水辺公園付近	12	南部耕地　　※鳥類調査のみ実施
	６	はきだし沼	13	江川地区
	７	座生調整池		

調 査 対 象	植物、鳥類、両生類・爬虫類・魚類、昆虫類、哺乳類（任意）、歴史

調査体制（※団体名五十音順）	江戸川の自然環境を考える会	田中利勝氏
	東葛自然と文化研究所	新保國弘氏
	利根運河の生態系を守る会	紺野竹夫氏、柳沢朝江氏、内海陽一氏、宮原久子氏
	野田昆虫談話会	柳澤勉氏、小泉雅弘氏、井上雅博氏、小山翔氏、石川和馬氏、徳永さと子氏
	野田自然保護連合会	岩槻秀明氏、柄澤保彦氏、上原氏
	野田野鳥同好会	田中勝美氏　ほか
	三ツ堀里山自然園を育てる会	土屋守氏

※歴史調査結果は次回市民会議でご報告を予定しています。

【秋季調査結果の概要】

秋季調査では、合計で８２２種の生きものが確認されました。そのうちの 70 種（8.5%）は、「千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-」に掲載されている絶滅が心配される種、144 種（17.2%）が本来野田市に生育・生息しない「外来種」でした。特に植物では確認 514 種の約４分の１の 122 種という多くの外来種が確認されました。

秋季調査を通じ、調査員の皆さんから以下のような課題が寄せられました。

＜生物多様性に係る課題＞

- 良好な自然環境が残されている場所で目立つ**ゴミの投棄**
- 自然に親しむ場所・利用における自然を守るための**ルール・マナーの周知**
- 良好な自然を保全・維持するための**管理の方法・内容の見直し**
- 休耕地や雑木林などの開発による**太陽光発電関連設備増加**による生きものへの影響

議事２（資料２）「社会環境調査の実施状況（アンケート調査の実施概要）」

市内の全小学校 5 年生とその保護者等を対象としてアンケート調査を実施しました。現在、結果の集計作業を実施しています。集計結果は分析を加えて、以降の市民会議にてご報告します。

【社会環境調査の実施概要】

- 戦略策定に向けた調査・検討の一環として、市内の全小学校５年生の児童およびその保護者等を対象とする「野田市生きものの豊かさアンケート」を実施しました。
- 保護者等へのアンケートは、児童がインタビューする形態をとることによって、大人の協力（回収率）を高めるとともに、子供たちにとっての環境教育効果の向上に寄与するよう留意しました。
- アンケート実施の主旨は以下の通りです。
  ①生物多様性に関する認知度を把握する
  ②市民が望む自然環境のあり方について把握する
  ③野田市の生きものの現状に関する市民の認識や情報を把握する
- アンケート実施にあわせて、生物多様性について説明した参考資料を配布しました。資料作成においては、第３回市民会議における委員からのご意見をふまえ、より生物多様性をイメージしやすい資料に修正しました。

変更前

変更後

参考資料の変更部分

【アンケート調査の実施状況】

- 令和 2 年 11 月にアンケートを実施し、12 月に各小学校より回収。現在、回答を集計中です。
- アンケート回答数は、児童：1,305 件、大人：1,200 件の、計 2,505 件でした。（回収率は児童約 97%、大人約 89%）
- 回答の集計・分析結果は、今後の市民会議等の場で報告します。
- 今回と同様のアンケートを、前回の戦略策定時にも実施しており、前回調査からの市民意識の変化や、自然と共存するまちづくりのシンボルであるコウノトリに係る認識について把握することにしています。

議事３（資料３）「企業等委員への個別ヒアリングの実施状況」

市内の企業・大学関係者を対象に個別ヒアリングを実施しました。今後はこれらの企業・大学等との生物多様性に係る連携などをテーマに市民会議の場でご紹介していく予定です。

【個別ヒアリングの実施概要】

- 市民会議に参加する市内の企業・大学等を対象として、令和 3 年 1 月に個別ヒアリングを実施しました。
- ヒアリングでは、「現状において実施している生物多様性に係る取組」・「今後、取り組むことを考えている、可能性のある取組」についてお伺いし、企業や大学での取組として「生物多様性のだ戦略」へ組み込める要素を議論することを目的としました。
- ヒアリングの対象者は、市民会議の委員の中から、以下の５名の皆様にお願いしました。

【個別ヒアリングの主なポイント】

- 清水公園（鈴木委員）

  「花ファンタジア」で地域種を含め 700 種ほど管理を行っており、市内の自生地が失われた場合の危険分散の役割を担い、また、利活用の可能性を示唆。虫捕りをはじめ子供たちの自然体験の場として利用することを提示されました。

- ちば東葛農業協同組合（染谷委員）

  市内約半分の水田面積で農薬使用を減らす黒酢米が栽培されており、安定した販売先の確保が課題としつつも、子供たちの米づくり体験を通じて推進していくことを提示されました。

- キッコーマン株式会社（香西委員）

  原材料である水を利用する企業として、水環境を大切にする厳格な基準を遵守し、サプライチェーンを含め CSV として環境に取り組んでおり、生物多様性を含め地域社会への貢献の在り方などを提示されました。

- イオン株式会社（金丸委員）

  「ふるさとの森づくり」を通じ自然豊かなショッピングセンターとして地域の皆様と共に憩いの場とする取組を紹介、取り扱う商品は原材料に至るまで持続可能な調達を意識していること、店舗を中心とした環境教育の展開などを提示されました。

- 東京理科大学（朽津委員）

  理窓会記念自然公園をはじめ、研究施設と一体になった、豊かな里山の自然がキャンパスにあることを活かした教育を展開、大学と市が WIN-WIN となるメニューを考えて活用し、学生にとっても魅力あるまちづくりを提示されました。

企業・大学等との生物多様性に係る連携などを検討するにあたり、ご意見やお気づきの点などありましたら、意見書にご記入ください。

議事４（資料４）「今後の進め方等について」

１　第３回市民会議（令和２年９月 15 日開催）以降のスケジュールの修正について

新型コロナウィルス感染拡大を防止する観点から、当初予定していたスケジュールを次のとおり修正しています。

【令和２年度の実施内容】

■自然環境調査

市民会議の市民団体代表委員をはじめ、調査にご協力いただいている方と、個別ヒアリングを行いながら、調査地点・調査対象に関して検討し、ご意見をふまえ「自然環境調査実施計画」を作成し、８月 25 日に、「調査員会」を開催し、調査の実施内容等についての説明、確認を行いました。

また、第３回市民会議において、承認された内容で、自然環境調査（秋季、冬季、春季）を実施しています。

■社会環境調査

野田市内の小学５年生及びその保護者を対象としたアンケート調査を 11 月に実施しました。その際の、配布資料は、第３回市民会議でいただいた、ご指摘・ご意見をふまえて、作成しました。

現在、事務局で調査結果を取りまとめています。

【今後に向けた修正内容】

自然環境調査については、調査員の皆様のご尽力により、概ね予定通り実施しています。市民会議については、今年度の後半の市民会議は、自然環境調査や企業の取組などの報告事項が中心であることから、個別ヒアリングを実施し、内容を取りまとめ、書面にて、委員の皆様からご意見をいただき、その内容をふまえ、対面での会議を開催したいと考えています。

２　のだ戦略の見直し状況を野田市ホームページに掲載することについて

現在行っている「生物多様性のだ戦略」の見直しについて、野田市ホームページには、市民会議の資料及び会議録を掲載するのみとなっております。

今後、ホームページの閲覧回数が多い「コウノトリ放鳥情報」の中に、戦略見直し状況に関するページを作成し、市民が身近な自然を感じるきっかけを作りたいと考えております。